

【大腿 RIP AUTO使用時についての注意点のお知らせ】

大腿 RIP AUTO をより効果的に、より痛みを少なく、より安全に使っていただくための注意点をお知らせ致します。今までお伝えしていました手順とは一部異なる部分がございます。ご確認ください。

紙面のみでは伝わりにくい部分があると思います。お急ぎの場合はメール等でお問い合わせください。

また今後、保険加入にあたり、理論や操作についての勉強会を開催し、実習して頂く機会を設けてまいります。その他「RIP MANUAL時」や「MC トレーニング時」の注意点等につきましても、ぜひ勉強会に参加し、習得していただけますようよろしくお願い致します。

RIP AUTO のカフの巻き方



図 1

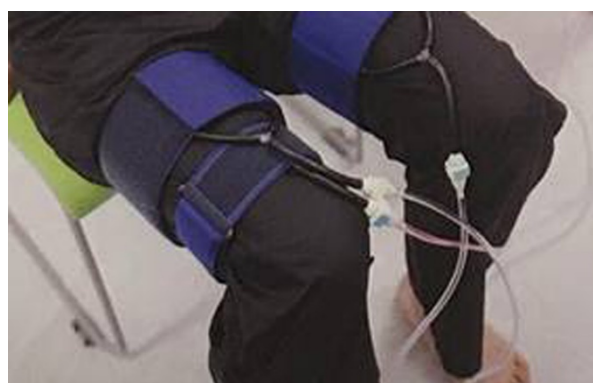


図 2

①RIP センサーカフと RIP カフとを用意します。

②まず RIP センサーカフを巻きます。左右どちらか一方の大腿部の膝に近い部分で、筋肉のある部分（膝の骨に当たらない部分）に巻いて下さい。

③次に RIP カフをその付け根寄りに 1cm ほど空けて巻いて下さい。（図 1 参照）

* RIP カフは、出来るだけきつく（強く）巻くようにしてください。（緩く巻くとカフが膨らんでかえって痛みが強くなります。）

* 一方、センサーカフは、ずれない程度のきつさで OK です。

* カフの金具部分に、皮膚を巻き込まないように注意してください。金具部分が大腿の側面に来るように巻くと確認がしやすいです。

④RIP AUTO 中、カフが膨らんでいる間は、身体は動かさないようにして下さい。

（図 2 参照）

* カフが膨らんでいる間に少しでも動くと、それをセンサーカフが拍動として感知して、どんどん圧が上がります。手の指先を動かしても感知して圧が上がる場合があります。

カフの巻き方で起こる違いについて

RIP カフは出来るだけきつく（強く）巻いて下さい。巻き方が緩いと、圧が上がったときにカフが膨らんで、カフと大腿との接触面（幅）が狭くなります。そうなるとかえってカフの締め付けの痛みが強くなります。カフをきつく巻いた方が、カフが膨らまないのので、接触面が広くなり、カフの当たりが柔らかくなります。

大腿 RIP AUTO のカフの巻き方の補足

- ① RIP カフを大腿の付け根に巻く必要はありません。RIP カフを大腿の付け根に巻くと、巻きにくく、カフの締め付けによる痛みが強くなります。RIP カフを大腿の付け根から離れた大腿の中央付近に巻くと、巻きやすく、痛みが一番軽くなります。
- ② しかし大腿の長さが短い時、RIP カフを付け根から離れた位置に巻くと、センサーカフを巻くスペースが無くなります。そこで、まず先にセンサーカフをできるだけ膝に近い位置に巻いて下さい。しかし膝に近すぎるとカフが骨に当たって、拍動を正確に感知できなくなりますので、膝の骨にあたらぬ位置して下さい。
膝に近いですが、骨にあたらない位置です。
- ③ 次に、そこから 1cm だけ離して RIP カフを巻いて下さい。RIP カフとセンサーカフの位置が離れすぎていると、拍動の感知が弱くなります。逆に近すぎると誤作動することがあります。
- ④ カフとカフの重なる部分が斜めにはみ出ることないように、きちんと重なるように巻いて下さい。